

七中だより

第8号

令和3年12月15日(水)

校長 勝野 能光

「一隅(いちぐう)を照らす」

校長 勝野 能光

中国の故事に次のような話があります。

昔、魏(ぎ)という国の王が「私の国には、大変貴重で大きな玉(ぎょく・・・ヒスイという宝石)が、10個あり、それぞれが車(馬車)の前後を照らしている。これが国の宝だ。」と述べた。すると斉(さい)の国王は、次のように答えた。「私の国には、そんな玉はない。しかし、車が進む隅々(すみずみ)をしっかりと守る人材がいる。それぞれの人が自分の守る一隅、一隅を照らせば、車の前後どころか、千里の先をも照らす。これが国の宝だ。」

この話から、「一隅(いちぐう)を照らす」という言葉が生まれました。「一隅を照らす」とは、一人一人がそれぞれの役割をしっかりと果たし、人々や世の中に貢献することを言います。

つまり、「一隅を照らす」が、意味するところは、「お金や財宝が国の宝ではなく、家庭や学校、職場など、自分自身が置かれたその場所で、精一杯努力し、明るく光り輝くことのできる人こそ、何物にも代えがたい、貴い国の宝である。」ということです。一人一人が、それぞれの持ち場で全力を尽くすことによって、社会全体が明るく照らされていくという事です。「人の心の痛みがわかる人」「人の喜びが素直に喜べる人」「人に対して優しさと思いやりが持てる人」・・・こそ国の宝であるのです。

これを、中学校生活について当てはめてみましょう。第七中学校の皆さんは、学級や学年、係活動、委員会活動、部活動等の様々な集団の中で、それぞれが役割を担って生活しています。その集団の中で、各自がそれぞれの役割をしっかりと果たし、集団に貢献することは大切です。目立たなくても、自らの役割や仕事をひたむきに行うことが、集団や他の役に立つのです。そのような行動が「一隅を照らす」ことになるのです。また、自分の夢をあきらめることなく、夢に向かってひたむきに努力を続けることも「一隅を照らす」ことにつながります。みなさん一人一人が、三鷹市立第七中学校の宝となるのです。学校生活では、様々な活動があります。そのような活動の中で、そして家庭など日常の生活の中で、それぞれがひたむきに取組みながら集団へ貢献し「一隅を照らす」ことができる人になってほしいと思います。

幸せな生活の秘訣は、「一隅を照らす」ことなのかもしれません。自分の良さや特性を生かし、自分自身がまず光り輝くことで周囲も明るく照らさせる。そしてその光は暖かさや充実感となっていく。こんな学校、家庭、地域、社会を創っていきたいものです、一人一人が「一隅を照らして」

コロナ禍ではありましたが、あっという間の2学期でした。授業、校外学習、音楽祭、定期考査、部活動、日常の活動・・・考えてみてください。皆さん一人一人が、一つ一つ準備して、様々なトラブルを乗り越えて、成し遂げてきました。つまり皆さんは、それぞれの場面で、確実に「一隅を照らしてきた」はずです。自信をもってください。

今年もお世話になりました。みなさま良いお年を。

ほたるの里・三鷹村「収穫祭」



11月7日(日)ほたるの里・三鷹村倉庫前広場で「収穫祭」が開催されました。9月19日(日)の稲刈り体験で収穫した米でお餅をつき、収穫のお祝いをしました。新型コロナウイルス感染防止による人数制限のため、餅つきは体験できませんでしたが、自らの手で収穫した米が、杵でつかれるたびに、粘りけが増し、お餅にかわっていく様子を生徒たちは興味深く見学していました。できあがったお餅は参加者全員に配られ、生徒たちは野川の岸辺等で、おいしそうに舌鼓を打っていました。



大沢台小・羽沢小の展覧会に展示

11月19日(金)～20日(土)には羽沢小学校、11月25日(木)～27日(土)には大沢台小学校でそれぞれ展覧会が開かれました。おおさわ学園における小・中一貫教育の連携の取組の一環として、本校の作品を両校の展覧会に展示しました。本校からは技術の授業で取り組んだ金属加工の作品を出品しました。児童の皆さんたちは中学生の作った力作の鑑賞を通して、中学校への憧れを抱いていたようでした。



企業の方の話を聞く会

11月20日(土)1年生は「企業の方の話を聞く会」を開きました。11月26日(金)に実施する企業訪問に向けて、企業のしくみやそこで働く人の考えを学ぶという目的で行いました。講師には株式会社SUBARUに勤務の藤川次郎氏をお招きしました。藤川氏には、職業人として働く喜びや意義等について、たいへん貴重な話をいただきました。



道徳授業地区公開講座

11月20日（土）道徳授業地区公開講座を実施しました。4校時は道徳の授業、5校時は講演会を行いました。4校時の道徳の授業は学校全体の共通テーマを「希望と勇気、強い意志」と設定し授業を行いました。5校時の講演会はスポーツメンタルトレーニング指導士の小林玄樹氏を講師にお招きし「自分らしく生きるとは」をテーマに、貴重なお話をいただきました。講演会終了後は小林氏を囲み、教職員やPTA役員、保護者とともに協議会を開き、意見交換をしました。



ヘルメットを着用した避難訓練

11月25日（木）地震を想定した避難訓練を実施しました。今回は三鷹市より生徒全員に貸与されたヘルメットを使用して行いました。地震発生時には様々な物が落下してくる危険があります。自らの安全を確保するには、落下物から頭部を守ることが大切です。生徒たちは座席の下に設置したヘルメットを速やかにかぶり、機敏な行動で校庭に避難しました。



地域人財を活用した授業



おおさわ学園では今年度「地域人財・資源の発掘と活用」～地域の力を児童・生徒の学びへ～をテーマとして学習活動の改善・充実を図っているところです。



12月1日（水）地域人財を活用した授業の一環として、自然科学研究機構国立天文台天文情報センターの普及室長・准教授 縣秀彦氏をお招きして、3年生の理科の出前授業を行いました。宇宙に関する様々な専門的な話をいただき、生徒たちは宇宙に対する新たな興味と果てしない夢を抱いたようでした。

2学期の通知表「所見」（「学校から」）の簡略化について

三鷹市立中学校では、全校で2学期に三者面談を実施していることから、通知表の通信欄に記載する生徒個別の所見を2学期については三者面談で各ご家庭に具体的にお伝えすることとし、通知表は市内全中学校統一の簡略な記述といたします。なお、1学期末及び学年末については、これまで通り通知表に個別の所見を記載しますので、あらかじめご了承くださいとともに、より良い学校教育を推進していくための業務改善であることをご理解いただきますよう、お願いいたします。

《1月の主な行事予定》

- 11日(火) 始業式 安全指導
校内書初め展(始)
- 12日(水) 鷹教研
②カット(①③④総)
*2年A・B組は⑥校時研究授業
- 13日(木) 自然教室事前検診(2年)
⑤⑥カット(①②③④)
- 14日(金) 自然教室前日指導のため
①⇔⑥
- 17日(月) 自然教室(2年)
~19日(水)まで
- 20日(木) ④カット(①②③⑤⑥)
- 21日(金) 専門委員会
①カット(②③④⑤⑥)
- 24日(月) 生徒集会 避難訓練
校内書初め展(終)
- 26日(水) 都立高校推薦入試
~27日(木)まで
- 31日(月) 中央委員会

※新型コロナウイルスの感染状況により、予定が変更になることもあります。

冬季休業中の相談窓口について

昨年度に比べ、徐々に新型コロナウイルス感染者は減少しつつあるものの、新型のオミクロン株ウイルスの感染者が国内でも報告されているように、まだまだ予断を許さない様相を呈しています。

新型コロナウイルス感染症対策として、通常とは異なる状況の中、冬季休業を迎えるにあたり、様々な不安やストレスを抱える生徒や、保護者の経済状況の変化等により、家庭における状況が悪化する生徒が増えていくことが懸念されます。

また、近年、長期休業日明け前後に、新たな学期を迎える不安から、登校の意欲を失ったり、不適応症状を訴えたりする中高生が、増加する傾向があります。

そこで、不安や悩みを抱えたときに、冬季休業中等の相談窓口として、活用できるよう、生徒全員に「不安や悩みがあるときは…一人で悩まず、相談しよう」を配布しております。

冬季休業中は12/29(水)~1/3(月)の完全機械警備期間及び休祭日を除き、学校には日直等の教職員が出勤していますので、相談がありましたら、ご連絡いただくとともに、上記資料の相談機関にもご相談すると、より一層「安全・安心な冬季休業中の生活」につながると思います。

冬季休業中の完全機械警備期間について

12/29(水)~1/3(月)の年末年始には、学校は閉庁となり、完全機械警備期間に入りますので、学校への連絡は対応できませんので、ご了承ください。

※新型コロナウイルス感染症についてのお願い

冬季休業中、ご家庭において、ご家族が感染者または濃厚接触者になった場合は、速やかに学校へご連絡ください。電話 0422 (31) 1118